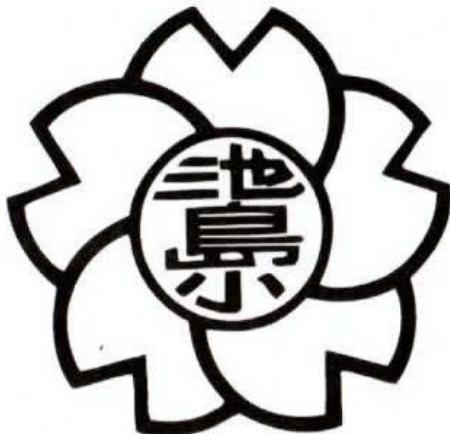


令和 6 年度

# 運営に関する計画

最終評価



大阪市立池島小学校

(様式 1)  
大阪市立池島小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

## 1 学校運営の中期目標

### 現状と課題

本校地域は 2 か所の児童養護施設と付随する 2 か所の小規模施設を有し、虐待を含む様々な社会的養護を必要とする子どもが約 40% 在籍している。その多くの子どもは愛着障がい（AD）の傾向をしめしており、重複して ASD（自閉スペクトラム症）や LD（学力不振）等の発達症をあわせ持っている。本来形成されるべき特定の人との愛着がうまく形成されず、感情の未発達・未学習を引き起こし、絆の問題を抱えることとなった子どもに対し、入学後に愛着形成を行う必要がある。これは施設の子どもに限られた問題ではなく、一般家庭でも見られる状態である。さらに、特別支援学級在籍割合は 36% であり、個々の子どもに対する手厚い支援が必要である。こうした状況の子どもの自尊感情を高め、自己と共に他者を大切にする心すなわち自己有用感を育てることは、本校にとって喫緊の課題である。

本校の地域は、児童養護施設の子どもに対する理解は深く、地域の子どもとして大切に育てている。施設側も地域と共に子どもを育てるという立場で子どもの育てに関わっている。

第 1 期、第 2 期大阪市教育振興基本計画のもと本校では、多くの成果をあげてきた。

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】においては下記である。

- いじめの解消率 100% を維持。
- 「学校は仲間がいて、いじめをゆるさない安心できる場所だと思う。」に対する肯定的な回答の割合は、80% を上回った。
- 「学校のきまり・規則を守っていますか」に対する肯定的な回答の割合は、90% を上回った。
- 自尊感情や自己有用感に関しては、「自分には 1 つ以上よいところがある。」に対する肯定的な回答の割合は 80% を上回った。「誰かの役に立つ人間になりたい（高学年）」と回答する児童の割合は、90% を上回った。
- 不登校の子どもが毎年 1 名以上出ており、登校できるようになってはいない。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】においては下記である。

- 小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較した時、3, 4, 6 年生は向上しているが、3 年連続で 5 年生が低下傾向にある。（令和 3 年度 3 年生 91.7 4 年生 99.0 5 年生 96.5 6 年生 97.0）
- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対する肯定的な割合は前年度より増加し、79.6%
- 「すすんで漢字学習に取り組んだ」に対する肯定的な割合は 85%、漢字検定合格率は 75.3%
- 令和 3 年度全国学力・学習状況調査では、国語、算数ともに平均正答率は大阪市を 6~7 ポイント下回っている。
- 令和 3 年度全国体力運動能力、運動習慣等調査の結果、体力合計点は、男子は大阪市平均を上回り、全国平均はやや下回った。女子は大阪市平均とほぼ等しく、全国平均を下回る結果となつた。

こうした現状と成果を踏まえ、新たな教育の方向性を導くために、第3期大阪市教育振興基本計画の3つの最重要項目から今後4年間取り組む課題を整理する。

### 安心安全な教育の推進

- 子どもと教員との愛着形成を図る。

本校の子どもにとって教員との愛着の形成は不可欠である。特に、学級担任、支援学級担当との愛着の形成を図り、感情の学習や他者との関係性づくりを進める。

- 自尊感情の向上を保障する。

学校のきまりを守る、自分の可能性に気づく、仲間と共に活躍する場を得る、自己の成長を感じる、他者から必要とされる、成功体験を繰り返す等の自尊感情を高める学校生活を保障する。

- 自他の命を守る力を育成する。

子どもの道徳性、社会性の育成に努め、自他の命を尊重し安全で安心な社会づくりに参加するための資質・能力を育てる。

### 未来を切り拓く学力・体力の向上

- 学習の基盤となる資質・能力を育成する。

すべての教科等における資質・能力の育成や学習の基盤となる言語能力を支える重要な要素である語彙を豊かにする。(読書、漢字)

- 授業の質的転換を図り授業力を向上する。

個別最適な学び（「個に応じた指導」（指導の個別化と学習の個性化）を学習者の視点から整理した概念）の一層の充実を図る。そのため、主体的・対話的で深い学びを実現する。同時に、探求的な学習や体験活動等を通じ、協働的な学びを実現する。

- 外国語活動、外国語科の授業の充実を図る。

C-NET、外部講師と外国語担当教員、担任との連携の強化を進める。「小学校低学年からの英語教育の時間」の確実な実践を積み重ねる。

- 自己の体力に関する理解を進め、主体的に運動する習慣を付ける。

体育科授業の実践記録の積み重ね、運動環境の充実、全校体力作りへの取組を行う。

### 学びを支える学習環境の充実

- 学習者用端末を使用した学習の日常化を図る。

協働学習支援ツールや学習用デジタルドリルの活用を一層充実させる。また、プログラミング学習年間指導計画に則った実践を積み重ねる。自己の体力に関する理解を進め、主体的に運動する習慣を付ける

- 「学校園における働き方改革推進プラン」に基づいた働きやすい職場環境を整える。

- 長時間勤務の解消、年次有給休暇の取得率の向上を図る。

- 読書環境を整え、読書活動を推進することによって、本好きな子どもを育てる。

前述の課題を受けて、令和7年度末までに達成する中期目標を下記の通りとする。

### 中期目標

#### 【安全・安心な教育の推進】

○令和7年度末の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
73.5	中止	73.9	67	75.8	82.4	

○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。

R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
0.71	1.60	1.80	0.99	0	0	

○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

○令和7年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を令和3年度(60.9%)より20%増加させる。

R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
70.6	中止	60.9	86.9	76.4	94.7	

○令和7年度の小学校学力経年調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を95%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
77.3	94.1	90.9	85.9	90.5	93.1	

○令和7年度の校内調査の「災害や防災について、自分にも起こりうる事と考えて行動できた」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
---	---	---	90	100	94	

#### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
34.4	36.7	42.6	27.2	40.4	36.6	

○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より向上し1.00以上にする。

	国語				算数			
	R1	R2	R3	R4	R1	R2	R3	R4
現6年生	0.85	0.86	0.89	0.90	0.95	0.92	0.77	0.73
現5年生		0.95	0.88	0.93		0.96	0.90	0.89
現4年生			0.77	0.81			0.73	0.68
現3年生				0.72				0.74

○令和7年度の小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を88%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
67.9	91.3	86.9	87.5	72.8	73.6	

○令和7年度の小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
63.0	64.2	67.8	68.4	62.3	52.5	

○令和7年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を80%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
79.7	中止	79.5	67.9	71.7	68.6	

○規則正しい生活を身に付けている児童の割合（令和7年度の全国学力・学習状況調査の「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする児童の割合）を70%、80%以上にする。

	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
寝ている	67.6	中止	60.9	65.2	66.7	89.5	
起きている	85.3	中止	78.3	82.6	75.0	89.5	

### 【学びを支える教育環境の充実】

○令和7年度の校内調査の、「授業の中で学習者用端末を活用して学習している」の項目（協働学習支援ツール、デジタルドリルを含む）について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、80%以上にする。

R4	R5	R6	R7
93	81	96	

○令和7年度の校内調査の、「学習者用端末を活用して発表することができますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。

R4	R5	R6	R7
86	77	95	

○令和7年度の校内調査の、「プログラミング学習は好きですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。

R4	R5	R6	R7
75	81	82	

○令和7年度の小学校学力経年調査における「読書は好きですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。

R4	R5	R6	R7
72.1	68.1	76.1	

○令和7年度の保護者アンケートの「お子様との会話や学校からの手紙、連絡等で学校でのお子様の様子がよくわかりますか」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を、90%以上にする。

R4	R5	R6	R7
95	94	90	

○ゆとりの日を毎週1回以上設定する。

○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を 100%にする。

（基準2とは、時間外勤務が年間720時間以下、月45時間を超える月数6月以下、月100時間を超える月数0、前2～6か月の平均が80時間を超える月数0）

## 2 中期目標の達成に向けた令和 6 年度目標

### 【安全・安心な教育の推進】

#### 学校園の年度目標

○小学校学力経年調査及び年度末の校内調査の「学校に行くのは楽しいですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合をいずれも 80%以上にする。

	R1	R2	R3	R4	R5	R6
経年	79.4	82.8	73.7	72.0	73.7	78.8
校内	77.3	85.7	85.5	86.0	89.0	91.0

○年度末の校内調査において、「自分には 1 つ以上よいところがある。」と肯定的な回答をする児童の割合を 80%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5	R6
68	83	79	82	93	87

○令和 6 年度の小学校学力経年調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5	R6
70.6	中止	60.9	86.9	76.4	79.9

○年度末の校内調査において、「いじめは絶対に許されないことだと思いますか。」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 85%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5	R6
45	47	58	77	91	99

○年度末の校内調査において、「学校や学級のきまり（約束）を守っていますか。」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 60%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5	R6
53	64	58	58	57	60

○令和 6 年度の小学校学力経年調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5	R6
77.3	94.1	90.9	85.9	90.5	93.1

## 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

### 学校園の年度目標

○年度末の校内調査において、「漢字の学習をがんばった」と回答する児童の割合を 85%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5	R6
82	91	85	88	93	97

○年度末の校内調査において、「算数の文章問題をがんばった」と回答する児童を 80%以上にする。問題解決型の授業改善、池島タイムの運用を工夫する。

R1	R2	R3	R4	R5	R6
△	△	△	90	91	99

○年度末の校内調査において、「授業は工夫されていて、わかりやすい」と回答する児童の割合を 85%以上にする

R1	R2	R3	R4	R5	R6
82	95	89	92	95	99

○年度末の校内調査において、「いろいろな教科などで、自分で考えたことを文章に表す活動をがんばりましたか」と回答する児童の割合を 85%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5	R6
74	90	88	87	91	93

○年度末の校内調査において、「いろいろな運動に挑戦した」と回答する児童の割合を 85%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5	R6
△	83	86	89	94	96

○規則正しい生活を身に付けている児童の割合（令和 6 年度の全国学力・学習状況調査の「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする児童の割合）を 65%、80%以上にする。

	R1	R2	R3	R4	R5	R6
寝ている	67.6	中止	60.9	65.2	66.7	89.5
起きている	85.3	中止	78.3	82.6	75.0	89.5

### 【学びを支える教育環境の充実】

#### 学校園の年度目標

○年度末の校内調査の、「あなたは、学習者用端末を活用して発表できましたか。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 75% 以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5	R6
			86	78	95

○年度末の校内調査の、「プログラミング学習は好きですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 70% 以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5	R6
			75	82	82

○小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75% 以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5	R6
82	72	76	72.1	68.1	76.1

○年度末の保護者アンケートの「学校は保護者や地域の方に学校での子どもたちの様子を十分に伝えていると思われますか。」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を、90%以上にする。

R1	R2	R3	R4	R5	R6
			95	94	90

○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の51%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く]

R1	R2	R3	R4	R5	R6
					90.6

### 3 本年度の自己評価結果の総括

#### 【安全・安心な教育の推進】

- 不登校児童は現状0であるが、登校時刻のずれている児童が、児童養護施設に2名、一般家庭に2名いる状況である。施設の児童は、大人への要求や自分の居場所への不安からそうなっている。一般家庭の児童は、スマホ依存による生活時間のずれが要因である。引き続き、施設の職員や保護者との対話を行ったり、子どもサポートネット会議で共有したり、区の子育て支援室と連携したりしながら学校から離れないよう支援している。
- 「いじめ」アンケートでは、15件のいじめ事案を確認できている。担任の聞き取りやていねいな指導の成果もあり、現状では解消率は100%である。当該児童以外の児童からの訴えもすべて丁寧な生活指導を行っており、早期解決ができている。また、「いじめ・命について考える日」での指導

をはじめ、特別の教科道徳の時間や人権学習で「いじめ」そのものを考えさせ、自分以外の人に対する考え方の育成、人権感覚の向上などをめざし学習をおこなっている。教務主任が中心となり、心の天気の確認を行い学級担任と連携しながら、児童の心情に寄り添う支援ができるようにしている。

- 校内調査において、「学校や学級のきまり（約束）を守っていますか。」に対して肯定的な回答をする児童は97%であり、大阪市学力経年調査でも95.9%の児童が肯定的な回答をしている。しかし、「最も肯定的な回答」となると52.6%にとどまり、守ろうという意識の向上には至らなかったと考えられる。
- 自己肯定感はかなり高まっているといえる。全国学力学習状況調査の結果では94.7%、大阪市学力経年調査の結果では82.8%、校内調査では87%の児童が肯定的な回答をしている。日々教職員が児童の愛着形成に努力をしている成果はでている。児童の生き辛さを理解しようと研修を受けたり、児童養護施設との連携を深めたり、全児童に対して共通した関りを進めている成果といえる。児童会が中心となって取り組んだ「なかよしウィーク」や各学級で行った「今日のきらりさん」や「いいところみつけ」、「今日のありがとうさん」を通して、互いを認め合ったり許しあったりする気持ちが育ってきている。

#### 〈今後の課題〉

引き続き、学校経営理念として掲げた「モチベーション3.0（内発的動機付け）」すなわち、興味、好奇心、才能の開花、自己の成長、キャリア意識、達成感、他の仲間、更には地域社会への貢献意識を中心とした動機付け法による児童の成長に至るためにエビデンスに基づく指導法を工夫する。

人に備わる、「有能感」「自律性」「関係性」という3つの心理的要件に応えることができるような文化的価値のある学校行事、日々の指導、児童との関わり方について研修を深める。児童の内面に寄り添い、心理的要件が満たされるように、よりいっそう環境を整え、内発的動機付けを発揮できるようにする。加えて大人も子どもも「ウェルビーイング」をめざす学校づくりの実行を進める。

#### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較したところ下記のような結果であった。

	国語					算数				
	R2	R3	R4	R5	R6	R2	R3	R4	R5	R6
現中1生	0.95	0.88	0.93	0.96		0.96	0.90	0.89	1.03	
現6年生		0.77	0.81	0.72	0.78		0.73	0.68	0.68	0.77
現5年生			0.72	0.66	0.68			0.74	0.60	0.68
現4年生				0.67	0.58				0.59	0.46
現3年生					0.81					0.66

いずれの学年も前年度より0.05ポイント向上させるとこに目標を置いていたが、達成できたのは、6年生の国語・算数、5年生の算数であった。4年生は国語算数ともに昨年度を下回っている。

まだまだ学習方法を含めて考慮する必要がある。

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合は、36.6%と目標を上回れなかった。
- 外国語に対する関心は中学年ほど高く、高学年になるほど下がる傾向にある。これは4技能（聞く・読む・話す・書く）のうち、話す・書く技能を求められることにより英語離れの現象が起きているのではないかと推測できる。本校では、低学年からの外国語学習は毎週水曜日と金曜日の朝の時間に20分ずつ行っている。また、民間の英語学習塾の講師を招聘し、1, 2年生に体験的に英語を学ぶ機会を設けている。今後これらの成果が出てくることを期待している。

### 令和6年度 漢字検定受検者数・合格者数

実施日1月24日（3学期本試験）

上段…受験者数 下段…合格者数

	10級	9級	8級	7級	6級	5級	合計	合格率
1年1組	6						6	33%
	2						2	
2年1組	1	7					8	50%
	0	4					4	
3年1組		9	2				11	82%
		7	2				9	
4年1組	1	6	8				15	60%
	0	5	4				9	
5年1組	1	4	6	5	2	1	19	53%
	1	2	1	3	2	1	10	
6年1組			10	3	2	5	20	70%
			7	2	1	4	14	
合計	9	26	26	8	4	6	79	
	3	18	14	5	3	5	48	
合格率	33%	69%	54%	63%	75%	83%	61%	

- 漢字検定への取組では、自分の今の漢字力を理解し、合格を目指す級を選定し、そのために漢字の勉強をする。こうしたメタ認知できる力は重要な非認知面の力である。児童は、朝学習や家庭学習で漢字検定の勉強を自学自習が当たり前にできるようになっている。自分の目指す級に合格したいという意欲の向上につながってきている。

- 令和6年度学力・学習状況調査の分析は以下の通り。

大阪府の結果と比較すると、平均正答率は国語—23%、算数—24%下回っている。国語では正当数半分以下の児童は 66.8%、算数では 72.3%であり、正当数分布は大きく左に偏っている。愛着に課題のある児童が多く在籍する本校では、児童の自己肯定感を高め、何事にも積極的に挑戦し、粘り強く取り組む姿勢を育てるために指導者は日々肯定的な声掛けをしている。また、児童の実態を見極めながら個別最適な授業づくりに努めている。しかし、自ら進んで学習に取り組もうとするマインドにはムラがあり、それは設問 21 にあるように帰宅後の学習時間が十分でないことからも伺える。学習することの意義を知り、学習することが楽しいと思えることが必要であると感じる。

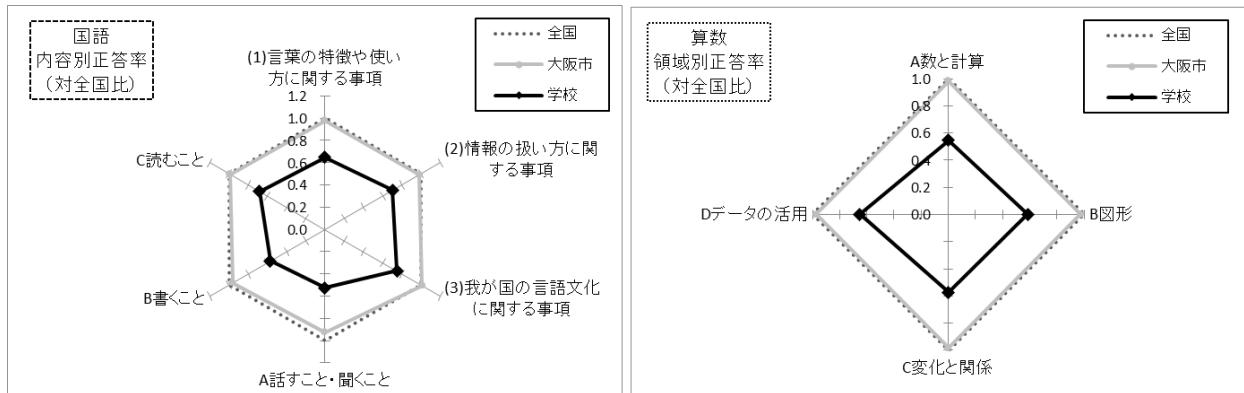
### [国語]

思考力・判断力・表現力等の「読むこと」と知識及び技能の「我が国の言語文化に関する事項」に関する問題は全国との差は小さい。これは、数年にわたり本校が読書に力を入れてきたこと、第1ブロックで取り組んでいる漢字検定への学習の成果と言える。しかし、記述式の問題の正答率は低く、自分の考えを文章で表現する力に課題がある。

### [算数]

本校では日々の授業の中で、デジタルドリルを積極的に活用している。また、ブロック予算で購入した学習ドリルの活用したり、各学年の児童の実態に合わせた補習の時間を計画的に実施したりしている。その成果が少しずつ現れ、知識・技能の問題の正答率は上昇傾向である。しかし、思考力・判断力・表現力の特に記述式の正答率は全国平均との差は大きい。

### ＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



- 令和6年度全国体力運動能力、運動習慣等調査の分析は以下の通り。

(母体数 19名)

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
男子	14.31	18.92	36.46	36.08	34.92	9.78	134.38	20.38	47.92
大阪市	15.78	19.09	32.72	38.56	45.05	9.52	147.96	20.45	51.13
全国	16.01	19.19	33.79	40.66	46.90	9.50	150.42	20.75	52.53
女子	16.00	19.83	41.33	31.67	27.17	10.62	124.00	13.00	48.83
大阪市	15.64	18.06	37.62	36.76	34.65	9.83	139.56	12.71	52.47
全国	15.77	18.16	38.19	38.70	36.59	9.77	143.13	13.15	53.92

” はじめに、令和6年度の本校5年生児童の全国体力・運動能力、運動習慣等調査は男子13人、女子6人の計19人を調査したものである。したがって、統計的に資料不足であり、単純に大阪市平均・全国平均と比較することはできない。

体力合計点は、男子・女子ともに大阪市・全国平均を下回った。種目ごとに見ると、男子は長座体前屈以外、女子は握力、上体起こし、長座体前屈以外の種目で大阪市・全国平均を下回った（女子のソフトボール投げは大阪市平均を上回っている）。

児童への運動に関するアンケート調査において、「運動やスポーツをすることは好きですか」の質問に対し、男子は8人が「好き」、5人が「やや好き」と回答し、「やや嫌い・嫌い」と回答した児童はいなかった。女子は2人が「好き」、2人が「やや好き」、1人が「やや嫌い」、1人が「嫌い」

と回答した。

1週間の総運動時間が60分未満の児童は、男子・女子ともに0人であった。

本校では、前年度に引き続き、休み時間に児童が外で体を動かして遊ぶ時間を増やすために「大縄跳び月間」「短縄跳び月間」「かけ足月間」の3つの取り組みを行った。それぞれの活動で、学級や個人で目標を持ち積極的に取り組んだり、進んで練習をしたりする姿が見られ、普段運動が苦手な児童も意欲的に運動することができた。また、教職員が積極的に児童と遊ぶことで、年度当初から多くの児童が外で遊ぶ姿が見られ、楽しんで体を動かす習慣が身についてきている。

体育の授業では、人数の少ない1・2年生、3・4年生では合体を行い、活動や場づくりの工夫を取り組んだ。また全学年で、毎年引き継いでいる授業づくりと場づくりの記録を参考にし、各学年が児童の実態に合わせた授業を実施した。

本校は年々児童数が減少しており、10人前後の学年も複数あり、大人数で取り組むような運動は実施しにくい。反面、運動場や体育館の割り当てで困ることはなく、広々とした場所で運動をすることができる。人数が少ないので運動用器具の数も十分足りている。上述したような効果的な取り組みを継続しながら、小規模校である特色を生かすことができるような体育活動に取り組んでいきたい。"

#### ＜今後の課題＞

自己調整学習を新たな授業改善ととらえ、更なる問題解決型授業の工夫を進める。パフォーマンス課題を設定し、児童が主体的に学べるようにする。学びを進める中で、個別最適な学びと協働的な学びの往還が図れる授業実践を行う。また、学習者用端末をより効果的に児童に使わせるための工夫、プログラミング教育の継続した学び、エビデンスに基づく学力分析、指導法の分析等を進める。ループリックを明確に児童と共有するように努めるとともに、パフォーマンス課題作成への道のりの指導を進める。同時に読書の習慣化を図り、読書量を増やせる手立てとして読み聞かせの機会の拡充を図る。さらに、研究を深め児童の学力の向上につながると考え、理解をもたらすループリックの作成を進めていく。

同時に、SST（ソーシャルスキルトレーニング）やコグトレといった認知機能強化トレーニングを取り入れ、毎日、毎体育の時間、池島タイムにゲーム感覚で取り組めるようにする。

運動環境の更なる充実とともに課題解決を伴う体育授業の質の向上を図る。加えて、運動習慣が高まるように、かけあし、なわとび等の業間運動の運営方法の見直しを図る。

#### 【学びを支える教育環境の充実】

##### 学習者用端末 年間活用率表

池島小学校

	令和6年										令和7年			年間達成率
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
教育委員会が設定した授業日数	10	21	19	13	4	19	22	19	16	16				159
日別活用率が80%以上の日数	10	20	16	11	3	18	19	16	16	15				144
月間達成率	100.0%	95.2%	84.2%	84.6%	75.0%	94.7%	86.4%	84.2%	100.0%	93.8%				90.6%

- 年度末の校内調査の、「授業の中で、学習者用端末を活用して学習している。」の項目（協働学支援ツール、デジタルドリルを含む）について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合が96%と目標を大きく上回った。これは、SKIPポータルの心の天気の入力が定着してきたこと、教科学習のまとめのスライドつくりの学習が増加したこと、デジタルドリルの活用が増えたこと、プロ

グラミング学習の時間が計画的に進んだことなどが要因として考えられる。一方、学年によって活用頻度が下がっていることもみられる。年度末の校内調査の、「あなたは、学習者用端末を活用して発表できましたか。」の項目について、肯定的に回答した児童は95%、「プログラミング学習は好きですか」の項目について、肯定的に回答した児童は82%と目標を上回った。

- 学校園における働き方改革に関しては、基準2を100%達成でき、基準1は昨年度よりも達成率があがっている。

項目	今年度	昨年度
基準1※3	90.48%	78.26%
基準2※3	100.00%	100.00%

#### 〈今後の課題〉

学習者用端末を使用する時間や機会は確実に増加している。引き続き使用による学習効果があがるように進めていく必要がある。また、端末そのものが児童の健康面や発達面への影響を考慮し、様々な研究成果を参考にしながらすすめていく必要がある。また図書環境の整備を引き続き進めるとともに、児童がもっと読書を楽しめるような工夫が必要である。

教員の働き方改革も引き続き推進し、教員も「ウェルビーイング」な職場となるように改革を進めていく必要がある。

## 大阪市立池島小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった	

年度目標						達成状況
<b>【安全・安心な教育の推進】</b>						
<b>学校園の年度目標</b>						
○小学校学力経年調査及び年度末の校内調査の「学校に行くのは楽しいですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合をいずれも <b>80%</b> 以上にする。						
RI	R2	R3	R4	R5	R6	
経年	79.4	82.8	73.7	72.0	73.6	78.8
校内	77.3	85.7	85.5	86.0	89.0	91.0
○年度末の校内調査において、「自分には1つ以上よいところがある。」と肯定的な回答をする児童の割合を <b>80%</b> 以上にする。						
RI	R2	R3	R4	R5	R6	
68	83	79	82	93	87	
○令和6年度の小学校学力経年調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を <b>80%</b> 以上にする。						
RI	R2	R3	R4	R5	R6	A
70.6	中止	60.9	67.9	76.4	79.9	
○年度末の校内調査において、「いじめは絶対に許されないことだと思いますか。」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を <b>85%</b> 以上にする。						
RI	R2	R3	R4	R5	R6	
45	47	58	77	91	99	
○年度末の校内調査において、「学校や学級のきまり（約束）を守っていますか。」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を <b>60%</b> 以上にする。						
RI	R2	R3	R4	R5	R6	
53	64	58	58	57	60	
○令和6年度の小学校学力経年調査の「人の役に立つ人になりたいと思いますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を <b>90%</b> 以上にする。						

R1	R2	R3	R4	R5	R6		
77.3	94.1	90.9	85.9	90.5	93.1		

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<b>取組内容①【1－1 いじめへの対応】</b> ○「いじめについて考える日」を設定し、全校朝会での指導・各学級での指導を行う。 ○各学年、いじめに関する道徳教材に年に1度以上取り組む。 ○委員会活動等でいじめを許さないことを啓発するポスターを作ったり、呼びかけたりする活動を行う。 ○「チャイムの合図を守る」「廊下階段右側歩行」などの学校のきまりに基づく強調週間を年に2回設定する。 ○月始めの全校朝会において、生活指導上改善すべき事案を児童に指導する。	A
<b>指標</b> ○本校実施のアンケート調査における「いじめは絶対に許されないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。 ○本校実施のアンケート調査における「学校や学級のきまりをまもっている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。	
<b>取組内容②【2－3 人権を尊重する教育の推進】</b> ○学年に応じて、各学級で児童が友だちの良いところや感謝の気持ちを伝え合うなど、互いを認め合う取り組みを行う。 ○人権学習や特別の教科道徳で扱う福祉の学習を行い、困っている人や助けを必要としている人の存在を児童が気付けるようにし、自分たちにできることを考えられるようにする。	A
<b>指標</b> ○本校実施のアンケート調査における「自分には1つ以上よいところがある。」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする。 ○本校実施のアンケート調査における「おでつだいをすすんでしようとしていますか」「だれかの役に立つ人になりたいですか。」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を85%以上にする。	
<b>取組内容③【2－3 人権を尊重する教育の推進】</b> ○児童が主役となった学習活動を行う。 ○児童会が中心となって、たてわり班を生かす集会やいけっこまつりを行うことで、児童が他学年と交流、活動し、仲間づくりをすすめる。	A
<b>指標</b> ○本校実施のアンケート調査における「学校に行くのは楽しいですか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

### 【取組内容①】

1月の本校実施のアンケート調査における「いじめは絶対に許されないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答した児童の割合は99%であった。また、「学校や学級のきまりをまもっている」に対して、肯定的に回答した児童の割合は97%であった。

- 5月に「いじめについて考える日」を設定、実施した。全校朝会及び各学級でいじめは絶対にいけないという指導を行った。
- 各学年、いじめに関する道徳教材に1回以上取り組んだ。
- 1学期に、代表委員会が相手を思いやる言葉を積極的に使うことを目的とした啓発活動である「なかよしウィーク」を実施した。
- 「チャイムの合図を守る」「廊下階段右側歩行」についての強調週間をそれぞれ2学期、3学期に実施した。
- 月始めの全校朝会において、毎月、生活指導上改善すべき事案を取り上げ、児童に指導した。

### 【取組内容②】

本校実施のアンケート調査における「自分には1つ以上よいところがある。」に対して、肯定的な回答をする児童の割合は87%で目標を上回った。また、「おてつだいをすすんでしようとしていますか。」「だれかの役にたつ人になりたいですか。」に対して、肯定的な回答をする児童の割合は99%で目標を上回った。

- 児童会が中心となって取り組んだ「なかよしウィーク」や各学級で行った「今日のきらりさん」や「いいところみつけ」、「今日のありがとうさん」を通して、互いを認め合ったり許しあったりする気持ちが育ってきている。さらに、教職員からも児童のことを讃め、認めるようにしたことで、前向きな気持ちで学習に取り組めるようになってきた。
- 各学年の実態に応じた人権に関わる学習、特別の教科道徳や地域と連携した福祉の学習を行った。学級では、お手伝いができるような機会をもち、有用感を感じられるようにした。その結果、児童は「ありがとう」の言葉に喜んでいたり、「自分ができることは何か」について考えられたりして、助け合う心が育まれている。

### 【取組内容③】

本校実施のアンケート調査における「学校に行くのは楽しいですか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合は91%と、中間評価と同じく目標を大きく上回った。

- 自己調整学習を取り入れることで、児童が主体となった学習活動を行う機会が増えた。その中で、児童同士が積極的に交流する場面も多く見られた。
- 月に1回企画されている「なかよしタイム」をはじめ、集会やいけっこまつり、ふれあい給食等、たてわりでのつながりを意識した活動を行うことができた。
- なかよしタイムでは、リーダー会議をしっかりと行うことで児童が主体となった異学年での関わりができていた。

### 改善点

### 【取組内容①】

取り組み内容はすべて計画的に実施できた。それでも、いじめに関する問題、相手を傷つける事案は常に起こりうる可能性があるので、教職員全員がそれらに対して強い危機意識を持ち続ける必要がある。事を未然に防ぐために、報告・連絡・相談を徹底した組織づくりに努める。何かが起こった場合には、一人の教員だけで対応するのではなく、複数の教員で指導または児童を見守っていく。生活

指導におけることも同様で、日常的・継続的な指導や見守りを行っていく。

**【取組内容②】**

引き続き、児童が互いを認め合う言葉を伝え合う活動に取り組めるように計画する。また、教職員からの前向きな言葉かけや頑張りを認める言葉を積極的に伝えるようにし、温かい雰囲気を校内に定着させていく。さらに、一定の否定的な回答をしている児童には、教職員間で情報を共有し、重点的に言葉かけや聞き取りをしていくようにする。

**【取組内容③】**

引き続き、否定的に回答する児童へのフォローを行っていく。学級活動だけでは改善することが難しいこともあるので、学校全体で共有し、積極的に声掛けを行っていく。たてわり班活動を継続していき、高学年はリーダーとして下の学年を引っ張っていこうという気持ちを育ませる。

(様式2)

大阪市立池島小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標						達成状況
<b>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</b>						
<b>学校園の年度目標</b>						
○年度末の校内調査において、「漢字の学習をがんばった」と回答する児童の割合を 87%以上にする。						
R1	R2	R3	R4	R5	R6	
82	91	85	88	93	97	
○年度末の校内調査において、「算数の文章問題をがんばった」と回答する児童を 85%以上にする。問題解決型の授業改善、池島タイムの運用を工夫する。						
R1	R2	R3	R4	R5	R6	
斜線	斜線	斜線	90	91	99	
○年度末の校内調査において、「授業は工夫されていて、わかりやすい」と回答する児童の割合を 87%以上にする						B
R1	R2	R3	R4	R5	R6	
82	95	89	92	94	99	
○年度末の校内調査において、「いろいろな教科などで、自分で考えたことを話し合ったり文章に表したりする活動をがんばった」と回答する児童の割合を 85%以上にする。						
R1	R2	R3	R4	R5	R6	
74	90	88	87	91	93	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【4－1 言語活動・理数教育の充実（思考力・判断力・表現力等の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○言語力育成のための基礎となる読書や漢字練習をする朝学習の時間を設定する。</li> <li>○学習活動全般を通して、分かったことや自分の考えを話し合ったり文章にまとめたりする機会を多く設定する。</li> <li>○児童が意欲的に漢字検定を受検できるように指導の工夫や言語環境の整備を図る。（漢字検定用のドリルの配付や、模試の実施、ポスターの掲示など）</li> </ul>	<b>A</b>
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○年度末の校内調査における「漢字の学習をがんばった」の項目について肯定的に回答する児童の割合を87%以上にする。</li> <li>○年度末の校内調査における「いろいろな教科などで、自分で考えたことを話し合ったり文章に表したりする活動をがんばった」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。</li> </ul>	<b>A</b>
<p>取組内容②【4－2 「主体的・対話的で深い学び」の推進（各学校の実態に応じた個別支援の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○問題解決型学習を意識した指導に取り組む。</li> <li>○全学年に話し合いの話型を掲示し、6年間を通じた意見交流の指導に取り組む。</li> <li>○主に算数科において、個に応じた指導を工夫し取り組む。</li> <li>○池島タイムを実施し、児童の基礎学力の定着を図る。</li> <li>○教育情報利用パソコンや学習者用端末を活用し、工夫した授業づくりに取り組む。</li> </ul>	<b>A</b>
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○年度末の校内調査において「算数の文章問題をがんばりましたか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。</li> <li>○年度末の校内調査において「授業は、工夫されていてわかりやすい」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を87%以上にする。</li> <li>○個に応じた指導や池島タイムに取り組み、児童の基礎学力の定着を図る。</li> </ul>	<b>A</b>
<p>取組内容③【5－1 体力・運動能力向上のための取組の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的な生活習慣を児童が身につけられるよう、教職員や委員会児童による呼びかけを行う。</li> <li>○体育授業を充実させるために、学年ごとに授業づくり・場づくりを記録する。</li> <li>○「なわとび月間」や「かけ足月間」を設定し、全校児童が運動に取り組む機会を設ける。</li> </ul>	<b>B</b>
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的な生活習慣が身についたか、年2回実態調査し、分析した結果を全教職員に周知する。また、実態調査で「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか」、「毎日同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して肯定的な回答をする児童の割合を65%、75%以上にする。</li> <li>○年度末の校内調査において、「いろいろな運動に挑戦した」に対して、肯定的に回答する</li> </ul>	

児童の割合を 87%以上にする。

### 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

#### 【取組内容①】

年度末の校内調査における「漢字の学習をがんばった」の項目について、肯定的に回答する児童の割合は 97%で、目標の 87%を大きく上回った。また、「いろいろな教科などで、自分で考えたことを話し合ったり文章に表したりする活動をがんばった」項目について、肯定的に回答する児童の割合は 93%で、目標の 85%を大きく上回った。

- 読書や漢字学習をする朝学習の時間を設定した。特に今年度は漢字学習の時間に指導者が教室にいられるように工夫をしたことで、学習の機会を確保することができた。漢検の受検までにドリルを全て終え、デジタルドリルを活用して学習に取り組む児童もいた。
- 各教科で自分の考えや学習のふりかえりを書く活動を取り入れた。また、それに対して指導者がフィードバックを行うことで、児童の考えをまとめる力や学習の意欲が向上した。観点を示したり、文型やキーワードを提示したりする方法に効果があった。
- 11 月に漢検模試を実施し、合格への意欲が高まった。漢字検定対策ドリルやデジタルドリルを活用して繰り返し問題に取り組ませた。

#### 【取組内容②】

年度末の校内調査における「算数の文章問題をがんばりましたか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合は 99%で、目標の 85%を大きく上回った。また、「授業は、工夫されていてわかりやすい」の項目について、肯定的に回答する児童の割合は 99%で、目標の 87%を大きく上回った。各教科で個に応じた指導や池島タイムに取り組み、児童の基礎学力の定着を図った。

- 主に算数科や社会科において、問題解決型学習に取り組んだ。児童は課題意識をもち、解決するため自分なりの方法で調べたり、考えたりしていた。児童同士で協同的に学習する姿も見られた。
- 学年によって話し合いの型を掲示したり、話し合いの観点を提示したりすることで、児童が話し合い活動に取り組みやすいよう工夫した。
- 自己調整学習を取り入れたことで個に応じた指導を実現した。児童は各々が自分の学習に向かい、指導者は児童が必要とする場面で適切な支援をすることができた。計画を立て、自分なりの方法で学習していく児童の姿が多くみられるようになった。
- 池島タイムでは、既習内容の補充的学習に取り組んだ。全体的に学習内容が定着しづらかった単元のプリントに取り組ませたり、苦手とする児童が多いいくつかの単元のプリントを用意して児童に選ばせたりし、真に必要な学習ができるようにした。また、デジタルドリルを活用し、個に応じた学習に取り組ませることもあった。
- 資料の提示や児童間の考えの共有などの場面で ICT 機器を活用した。

#### 【取組内容③】

基本的な生活習慣が身についたか、年 2 回実態調査を行い、結果を全教職員で共有した。「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日同じくらいの時刻に起きていますか」の項目について、肯定的に回答した児童の割合は、それぞれ 71%→74%、80%→73%で、前者は目標を大きく上回り、後者は少しだけ下回った。

- 委員会による呼びかけ、ビデオやお便りによる啓発、学級での指導を行った。
- 栄養教諭と養護教諭で生活チェック対策委員会を立ち上げ、早寝早起き朝ごはんについて否定的に答えた児童を抽出し、家庭への個別の手紙や児童への個別面談を実施した。

- 授業中の集中力のなさ、居眠りに加え、「遅くまで起きていた」「眠れない」等の児童の声もあり、生活習慣を整える大切さはわかっているが、実態が伴っていない。個別面談から、その原因の多くは、ゲーム・スマホであり、高学年ほど長時間使用している傾向にある。
- 年度末の校内調査において、「いろいろな運動に挑戦した」に対して、肯定的に回答した児童の割合は96%で、目標の87%を大きく上回った。
- 2回の「なわとび月間（大縄・短縄）」では、学級ごとに目標をもちながら取り組んだり、友達と教えあつたりする姿が見られ、運動に親しむよい機会となった。なわとびカードの達成に向けて、休み時間に進んで取り組む児童の姿も見られた。かけ足月間中は、体育科の授業でもかけ足に取り組むことで、児童の意欲や体力の向上につなげることができた。
- 毎学期、学年ごとの授業づくり・場づくりの記録を集約した。授業の計画の際には、過去のものも含め、参考にして立案することができた。
- 体育科の学習では年間を通して、サーキットやゲーム遊びを取り入れたり、場づくりや学習カード（めあて・ふりかえり等）を工夫したりすることで、いろいろな運動に挑戦する機会を設定できた。運動に対する気持ちが前向きになっている児童が増えたと言える。しかし、休み時間に外で遊ぶ児童は固定化されている傾向にあった。

### 改善点

#### 【取組内容①】

自分の考えを書く力は向上しつつあるが、それをもとに話し合い、さらに深めていく力には課題を感じる。児童間の交流を通して学習が深まるような授業展開を考えていく。

漢字学習に意欲的に取り組む児童がいる一方で、漢字に対する苦手意識が強くドリルに取り組もうとしない児童もいる。そのような児童への支援として、級ごとの問題を掲載したポスターを校内に掲示するなど、さらなる言語環境の整備に努める。

また、児童が日常的に漢字を使えるよう作文やノートなどでも指導し、定着と応用をめざしていく。

#### 【取組内容②】

考えを深めるための話し合いを達成できるような指導の必要性を感じる。話型や話し合いのポイントを示すことで、友達の意見を聞き、自分の考えと比較するなど話し合う力の向上をめざす。

自己調整学習を取り入れることは、児童のみならず指導者にも得るものがあった。今年度の成果を学年間・教科間で共有すればより充実させることができるのでないか。研究活動を通して浮かんできた自己調整学習の成果と課題について検討し、池島の児童の実態にあうように研鑽していく。

#### 【取組内容③】

基本的な生活習慣については、引き続き個別指導を行い、その結果を家庭や寮に返して、協力してもらうようとする。夜寝るのが遅くなり、結果的に朝起きづらくなる原因として、スマートフォンやゲーム機の使い方に課題があると考えられる。メディアとの付き合い方についても指導していく必要があるため、生活チェック表に新たに設問を作り、取り組んでいくのはどうか。

運動については、今年度も取り組んでいる「なわとびカード」「かけ足カード」などをより有効的に活用できる方法を学校全体で共有し、児童の意欲を高める手立てとしていく。また、実技研修を充実させていくことで、指導者が様々な運動の指導方法を習得して、体育科の指導に活かせるようにする。

休み時間に教室で過ごす児童が固定化されている。外で体を動かして遊ぶ機会を増やせるよう個別に呼びかけをしたり、みんな遊びとして教員も遊びに参加したりする。遊びの内容がドッジボール、サッカー、鬼ごっこなどに固定化されている面もあるため、一輪車や竹馬などに体育の学習で取り組ませることで、休み時間にも活用する児童を増やし、様々な遊びができるようにする。また、次年度も暑さ指数の高い日や雨

の日に体育館を開放していくとともに、体を動かす機会をどう増やしていくかを考えていく必要がある。

## 大阪市立池島小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標						達成状況												
【学びを支える教育環境の充実】																		
学校園の年度目標																		
○年度末の校内調査の、「あなたは、学習者用端末を活用して発表できましたか。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を <u>70%以上</u> にする。																		
<table border="1"> <tr> <th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr> <tr> <td>△</td><td>△</td><td>△</td><td>86</td><td>77</td><td>95</td></tr> </table>						R1	R2	R3	R4	R5	R6	△	△	△	86	77	95	
R1	R2	R3	R4	R5	R6													
△	△	△	86	77	95													
○年度末の校内調査の、「プログラミング学習は好きですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を <u>70%以上</u> にする。																		
<table border="1"> <tr> <th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr> <tr> <td>△</td><td>△</td><td>△</td><td>75</td><td>82</td><td>82</td></tr> </table>						R1	R2	R3	R4	R5	R6	△	△	△	75	82	82	
R1	R2	R3	R4	R5	R6													
△	△	△	75	82	82													
○小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を <u>75%以上</u> にする。						B												
<table border="1"> <tr> <th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr> <tr> <td>82</td><td>72</td><td>76</td><td>72.1</td><td>68.1</td><td>76.1</td></tr> </table>						R1	R2	R3	R4	R5	R6	82	72	76	72.1	68.1	76.1	
R1	R2	R3	R4	R5	R6													
82	72	76	72.1	68.1	76.1													
○年度末の保護者アンケートの「学校は保護者や地域の方に学校での子どもたちの様子を十分に伝えていると思われますか。」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を、90%以上にする。																		
<table border="1"> <tr> <th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr> <tr> <td>△</td><td>△</td><td>△</td><td>95</td><td>94</td><td>90</td></tr> </table>						R1	R2	R3	R4	R5	R6	△	△	△	95	94	90	
R1	R2	R3	R4	R5	R6													
△	△	△	95	94	90													
○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の51%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く]																		
<table border="1"> <tr> <th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr> <tr> <td>△</td><td>△</td><td>△</td><td></td><td></td><td>90.6</td></tr> </table>						R1	R2	R3	R4	R5	R6	△	△	△			90.6	
R1	R2	R3	R4	R5	R6													
△	△	△			90.6													

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<b>取組内容①【6－1 ICTを活用した教育の推進】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習者用端末を活用して、年に1つ以上スライドやカードを作成する活動をする。</li> <li>○プログラミング学習年間指導計画に沿って、各学年プログラミング学習を行う。</li> <li>○「心の天気」の入力を忘れずするよう、登校後の朝の準備に取り入れる。</li> </ul>	
<b>指標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○年度末の校内調査における「授業の中で学習者用端末を活用して学習している。」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、75%以上にする。</li> <li>○年度末の校内調査における「学習者用端末を活用して発表することができますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。</li> <li>○年度末の校内調査における「プログラミング学習は好きですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。</li> </ul>	<b>A</b>
<b>取組内容②【9－2 教育コミュニティづくりの推進】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校ホームページの日々の更新や学校だよりの配付等により、学校や児童の様子を伝える。</li> <li>○地域と合同の交通安全教室やPTAと学校共催の福祉体験活動、ふれあいまつり等、保護者や地域とのつながりを持つ行事に参加する。また、学校でもいけっこまつりや運動会等、保護者や地域とつながりを持つ行事を行う。</li> <li>○港区はぐくみネットによる授業を計画、実施する。</li> </ul>	<b>B</b>
<b>指標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○年度末の保護者アンケートにおける「お子様との会話や学校からの手紙、連絡等で学校でのお子様の様子がよくわかりますか」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を、90%以上にする。</li> </ul>	
<b>取組内容③【8－2 「大阪市子ども読書活動推進計画」に基づいた取組】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○毎週火曜日に朝の読書タイムを実施する。また、様々な本に触れるができるよう、学級貸し出しも利用し、1か月に1度程度学級文庫の入れ替えを行う。</li> <li>○図書委員会によるおすすめの本の紹介や毎週1回の図書館開放を実施する。また、学級でも毎週1回図書室を利用したり、学級貸し出しを利用したりして本に触れる機会を多く持つことができるようとする。</li> <li>○図書の時間に図書館司書による読み聞かせを実施する。</li> </ul>	<b>B</b>
<b>指標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。</li> <li>○年度末の校内調査における「あなたは本を読むことが好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。</li> </ul>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<b>【取組内容①】</b> 校内調査における「授業中の中で学習者用端末を活用して学習している。」の項目について、「毎日」、「ほぼ毎日」と回答した児童の割合は96%であり、中間評価より9ポイント上昇し目標を大きく上回った。校内調査における「学習者用端末を活用して発表することができますか。」の項目について、肯定的に回答した児童の割合は、95%であり、目標を20ポイント上回った。校内調査における「プログラミング学習は好きですか。」の項目について、肯定的に回答した児	

童の割合は82%であり前回から微増し、目標を12ポイント上回った。

- 「心の天気」の入力を全学年で取り組んだり、授業の中で活用する場面を積極的に計画したり、自己調整学習を進める中で自然と使う場面が増えたりしたことが要因といえる。
- すべての学年で学習者用端末を活用した発表を行ったことによって、児童ができるようになつたと実感できたといえる。スライドを作成するアプリも「SKYMENU」や「Google スライド」、「Canva」など多岐にわたり豊富になってきた。タイピングに取り組んだ学年もあり、打ち込むスピードが速くなることで、発表資料作成への障壁も減少したといえる。
- プログラミング学習については、学年ごとに年間計画に沿って実施し、児童もできて楽しいと感じているものが数値に表れている。ただ、指導者の準備が追い付いていないという現状もあるようで、児童に十分な指導ができていない部分もあるようである。

### 【取組内容②】

校内調査における「お子様との会話や学校からの手紙、連絡等で学校でのお子様の様子がよくわかりますか。」の項目について、肯定的に回答した保護者の割合は90%であり、目標に到達している。

- 学校だよりに校長による月の行事に関する記事を掲載したり、ホームページに学習活動の様子を掲載したりして、保護者が児童の様子を知ることができるようしている。
- はぐくみネット事業は1月の土曜授業で実施した。
- その他の行事に関しても、運動会での保護者参加の団体競技やふれあいまつりでの発表など、保護者や地域の方とかかわるような形を作つて実施することができていた。しかし、校内調査「学校での様子を家や寮で話していますか。」について、肯定的に回答した児童の割合は57%と低く、家庭や寮で学校の話をしていないことがうかがえる。学校から家庭や寮へは伝わっているが、子どもから保護者や寮の職員へつなげられればさらによくなるといえる。

### 【取組内容③】

経年調査「読書は好きですか」について肯定的に回答した児童の割合は74%であり、目標に1ポイント届かなかった。校内調査における「あなたは本を読むことが好きですか。」の項目について、肯定的に回答した児童の割合は72%であり、目標を3ポイント下回った。

- 校内調査で否定的な回答をしている児童の内わけを見ていくと高学年で15名、低学年で9名の児童が否定的回答をしている。近年は動画等を視聴する機会が多く、自分で読まなくても内容を理解できるツールが増えてきていることも影響していると考えられる。朝読書や図書室の利用、学級文庫の変更等様々な取り組みを実施しているが、本を読むことが好きではないと思っている児童が一定数いる。
- 図書室の環境については、クッションを置いたり、本の整備をしたりして居心地の良い環境作りができている。また、読書週間には「読書bingo」が実施され、様々な分野の本を読む機会を作るような工夫がなされている。また、今年度からは本を1度に2冊借りることができるようにもなっている。そして、学級文庫の借りかえも月に1度以上と積極的に行われている。
- 今年度は図書委員会の児童による読み聞かせが朝学習の時間に行われた。本を読むことに良いイメージを持っていない低学年の児童も、とてもうれしそうな様子で聞いていた。図書委員の児童もたくさん練習してきていたので、自信をもって読み聞かせをしていた。互いにメリットのある交流でとてもよかったです。
- 経年調査の対象が3～6年生なので、否定的な児童を肯定的に変えていく工夫が必要。低学年のうちから本を読んでよい情報や知識を得られたことや、物語が面白いなど本に対して良いイメージを育てていくことが重要である。

## 改善点

### 【取組内容①】

- 心の天気の入力については朝の準備に取り入れられている。担任が入力の有無がわかる画面を表示して、視覚的に児童がとらえることができるような工夫もしている。それでも入力をしない児童がいるので、担任以外の教職員も心の天気を確認し、入力していない児童への声掛けを行っていくことにより、児童も見てくれていると実感して入れるようになるのではないか。
- 総合的な学習の時間を来年度は「総合的読解力育成カリキュラム」に回す部分が大きくなり、プログラミング学習の時数を減らす必要がある。そのため、内容の見直しが必要である。ただ、児童が「できた」と感じられ達成感を得られるような内容を厳選し短縮化していくようにする。また、大きな負担にならない程度に、プログラミング実施教材についての記録を簡単に作成し、共有できるようにする。

### 【取組内容②】

- 地域や保護者とかかわることのできる行事については継続して実施していきながらも、児童がより意識できるように、地域の方を招く機会や交流する機会を設けたり、教職員が家庭や寮で話す機会が持てたりするような工夫を行っていく。

### 【取組内容③】

- 本に対して良いイメージを育てていくには、活字が苦手な子のために読み聞かせをしていくことが効果的だと思う。そのため、図書の時間や読書タイムにこちらから積極的に、本に関わる機会を設定していく。また、今年度実施していただいた図書委員による読み聞かせを可能であれば年度が替わって早いうちに実施していく。